

黒沢洞合自然公園拡張整備基本方針

■ コンセプト
 里山の自然を保全・創造し、また、里山の豊かな自然環境や動植物とふれあうことで、子どもも大人も未知の体験に胸を弾ませ、里山の自然を楽しみ活用するビオトープ型の自然公園。

■ 整備目的
 次世代への環境遺産として継承
 里山の自然環境に、子どもも大人も容易に触れ合い経験できる場

■ 整備方針
【全体】
 広大で開放的な、成長するビオトープ型の公園

【方法】
 南安曇農業高校の生徒が学習や実習を兼ねて参加
 子どもが必要と考える自然公園の提案
 市民が関わる公園づくり
 子どもによる植樹等

【構成】
 ○自生する生物が集まり繁殖しやすい空間
 ○最初から作り込み過ぎず、植物の自然な成長を観察
 ○昆虫、植物の採取を自由にできるように。
 ○環境に配慮したうえで、教育保育機関等が体験活動・学習活動・観察会等の利用。

【動線】
 公園内を回遊でき、変化も楽しめる園路

【施設】
 里山の自然に配慮し、設備は原則設置しない。↑トイレは最低限設ける必要がある

【その後の活用】
 市民が気軽に里山の自然に触れ合える場として活用。
 学校や認定こども園等に呼びかけ、学習活動の一貫として活用。

〇〇が〇〇できる公園 具体像 【南農生提案】

〇〇なので 背景・理由・目的	〇〇(誰)が ターゲット	〇〇できる公園 できること
H16~18年度(H193月竣工)整備でいろいろな生き物呼び寄せた	色々な生き物 ←食物連鎖を考えて設定する ① トンボ クワガタ カエル カブト チョウ 水鳥・野鳥 猛禽類	寄ってきたくなる場所・池 餌場になる
安曇野市の自然公園なので	木の実を食べにくる野鳥たち	寄ってきたくなる場所
昔はたんぼだった土地	自然の好きな人たち (自然とのふれあいを深めたい世代も) ↑自然に関心のない人たちにも	四季を感じる 田んぼの面影を感じる
ビオトープ型の自然公園	こどもたち ③-1 ↑こどもがくると親やじじばばが一緒にくる	観察と合わせて入れる池 昼夜の自然観察 遊ぶための公園とは区別 バードウォッチング 川に近づける 夜の星空観察 借景に感動
開けた空のある空間	自然や山が好きな人たち	樹木を伐採して薪利用
東西2000m級の山を眺められる場所 三郷最高峰の黒沢山 将来的に間伐も必要	市民中心 人に危害を加えるものを排除しないと団体は呼べないのでは? ↓ ②・③-2	小学生等 マイクロバスでの団体来園 ここまで来るような保育園はなかなかないのでは? ③-2
遠足で来れる場所	自動車でここに来たいという人たち	団体で来ても車を停めることができる
公園が広がることで来る人たちを受け入れるには駐車場不足 車もすれ違いえない	そうでない人たちに對しても	すれ違いができ安心して車を止められる
現在の公園は元気な人向き	足の不自由な方(高齢者等) 車椅子を使用した人も	歩いて自然にふれあえる公園 安心して公園で過ごすためのトイレやスロープがある
公園が広がることで既存の便所までの距離が遠くなる		
使ってよいエリアが見た目ではわかりにくい(とくに川との境界) ⑤		

その実現に必要なハードとソフト

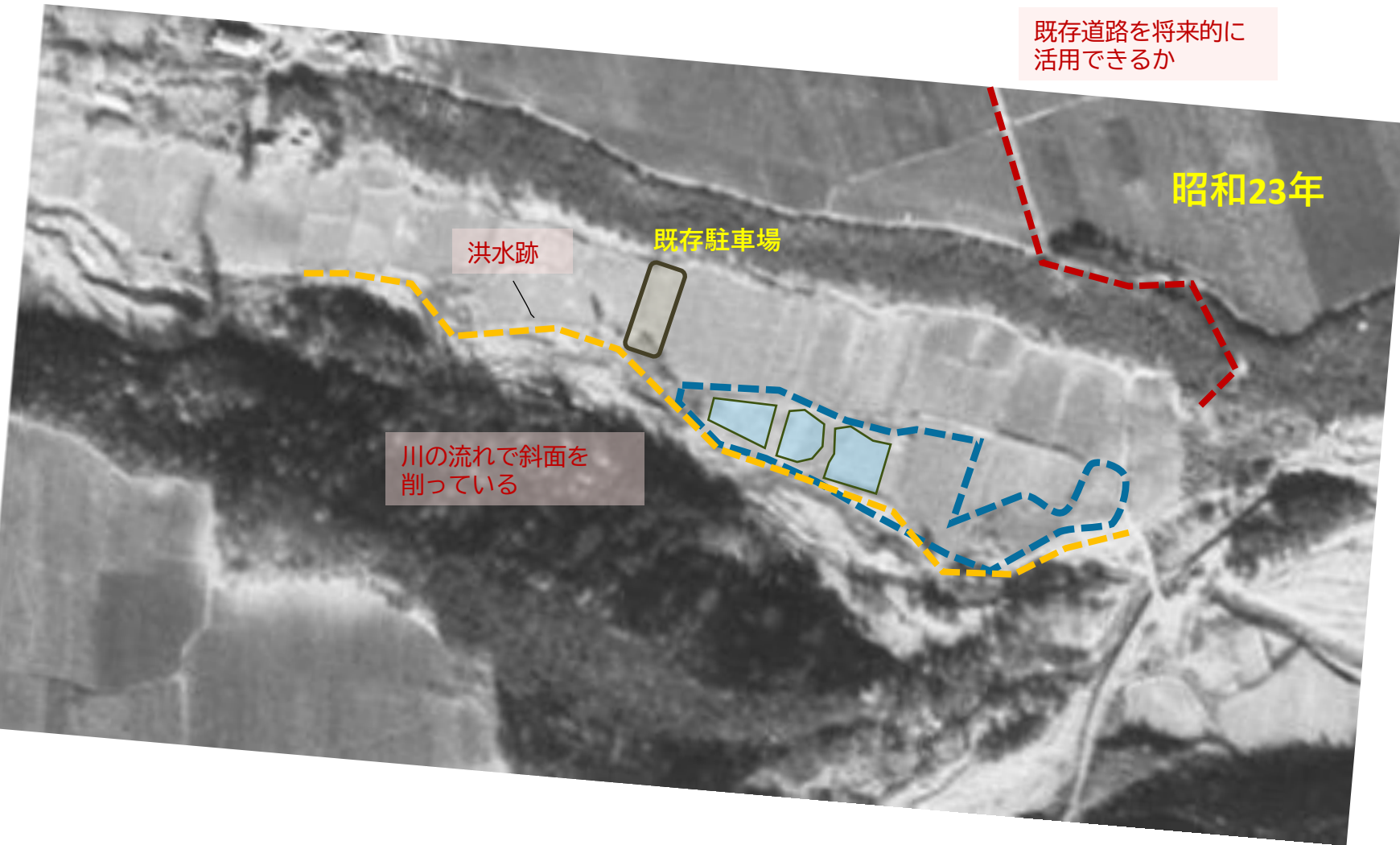
ハード	ソフト
◆二段目か三段目に池 ◆木の実を食べにくる野鳥や動物を利用して自然な雰囲気を出	① 貴重な植物などの保全、昆虫等の食草の確保 ① 命の連鎖、つながりを伝える ○牧草などはなるべく回避 ○外来種は取り除き現地に生育する在来種の植物を利用
◆木の実がつき、動物が来る植物を植栽 ◆広葉樹、落葉樹の植栽 ◆夏に日陰になるような樹木の植栽 ◆四季おりおりの花、野草	② ←クマ、サル等の有害鳥獣への対応(黒沢川上流部での対策、サル追い) 公園周りの森林の手入れ
◆昔たんぼだったを想起させる原型を崩さない造成。 ◆歴史を感じる要素を残置 ◆日陰のある涼しい池	① 命のつながりを学べる 暮らしたのつながりを学べる 人の暮らしとの関わりを伝える(間伐・動植物の利用) 例) クララの草木染めによる利用 伐採樹木の循環(薪)利用
◆現在の駐車場の段を見晴らし的空間にあわせて足の悪い人でも座れる自然石ベンチの設置 ◆黒沢山と美ヶ原・鉢伏山を借景とした広場(東側の樹木の伐採含む)	
◆上下2か所の駐車場。日陰になる木のある夏でも涼しい駐車場 ◆車の退避スペースのある進入路(ただし公園区域のみ) ◆トイレ新設(下に作る駐車場の場所へ)バリアフリー型のバイオトイレ ◆足の不自由な方にも配慮したスロープや園路(上るのが困難なほどの急な坂は避ける) ◆黒沢川にいくまでの道(園路)	⑤ ③-2、④、⑤は次ページ参照 ↑川へのアプローチ方法
柵やフェンスでエリア範囲を明示する必要もあるのでは?	

8/8委員からの提案(要約1)
 これまでの南農生からの提案にはない事項

①生き物どうし・人と生き物の関係
 生き物の相互関係や食物連鎖について、人との関係を伝える役割を担う公園としての整備(ハード)や活用(ソフト)の方策が必要

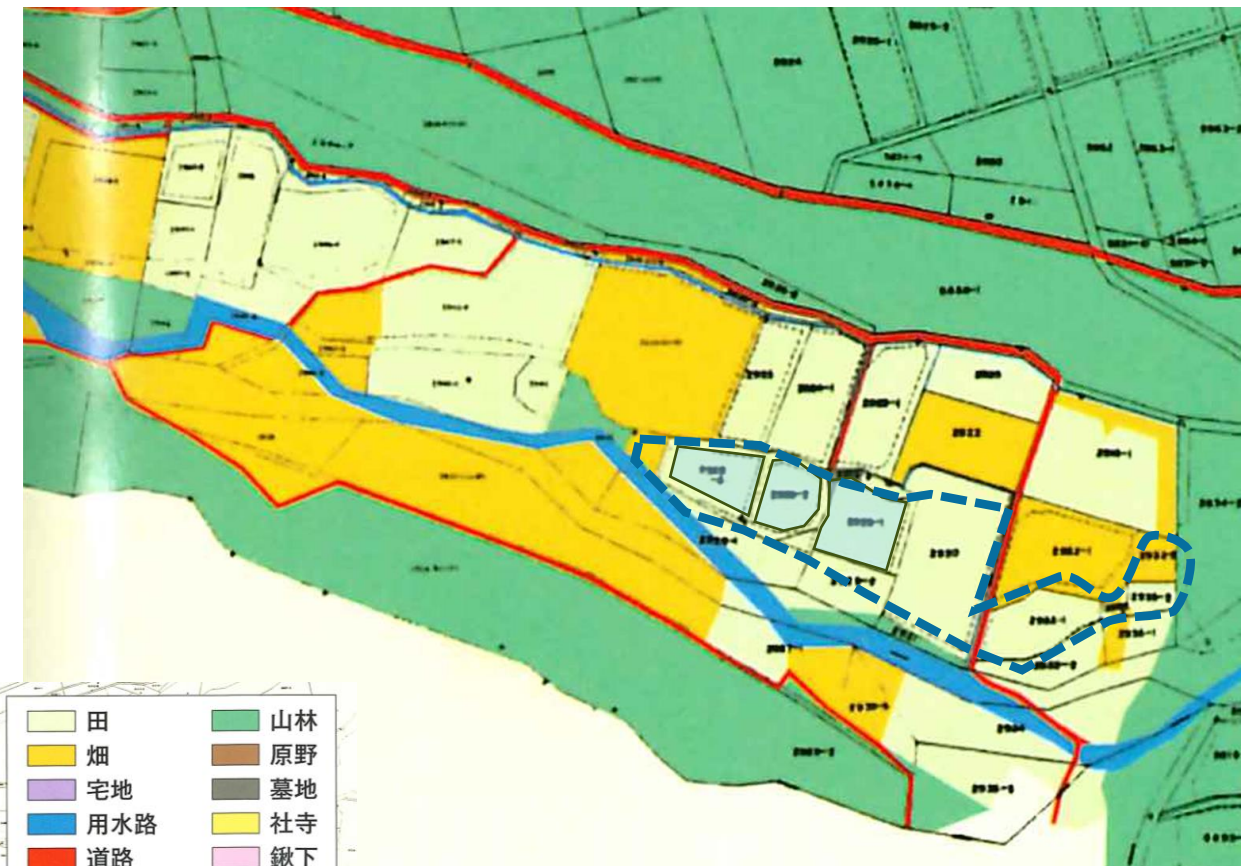
②大型哺乳類への対応
 クマも出る場所ではあるため、相応の対策は必要になる

③-1 対象とする人
 自然に関心の薄い人たちにも訪れてもらいたい。とくに子供たち。



昭和49年に圃場整備される以前の土地の使い方は、古くから続いた洞合の環境の基盤。この土地割を敷地の空間構成に反映させることも方法の一つ。

明治22年景観図



(三郷村村誌より)



上からマイクロバスが入ってくるのは大変

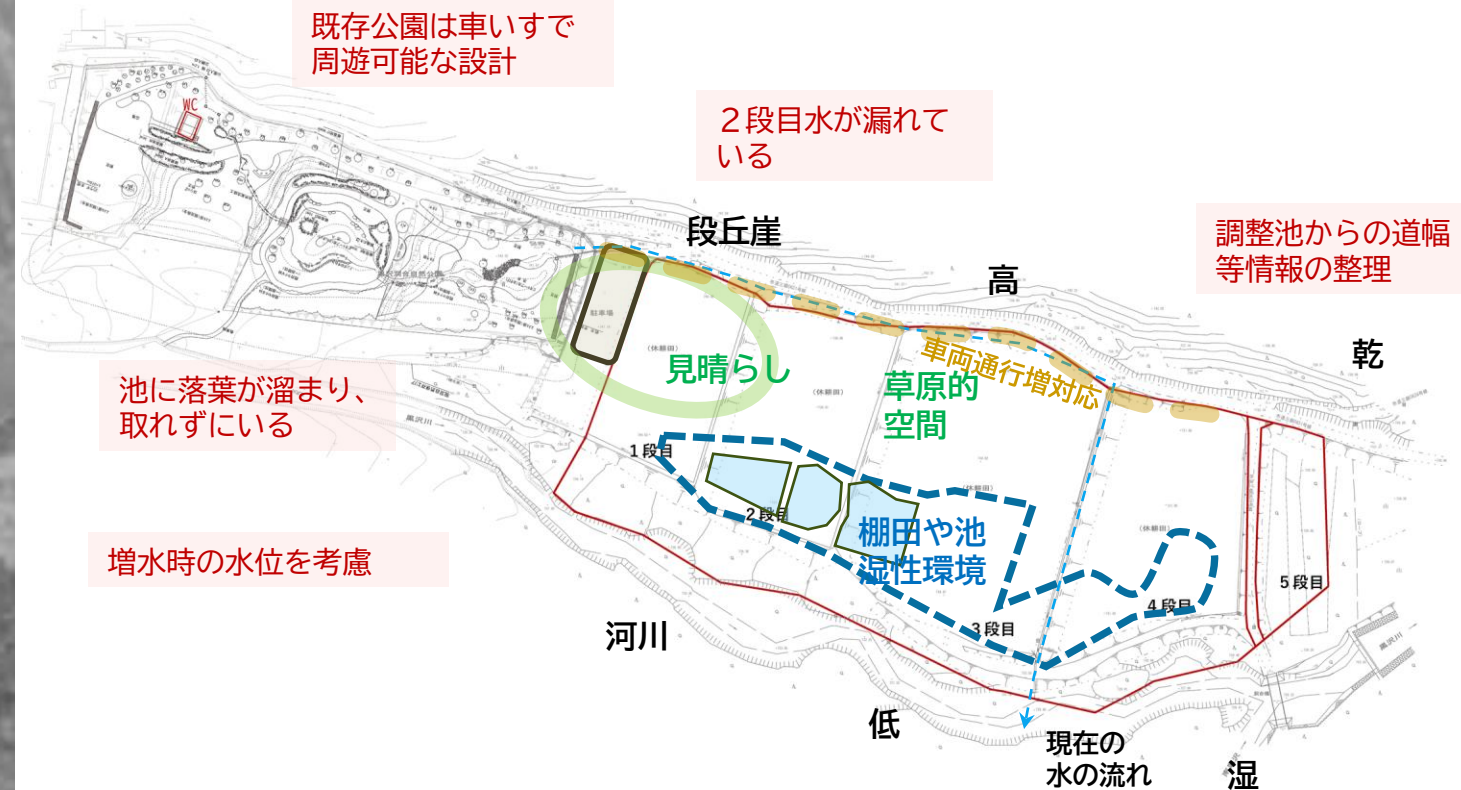
既存公園は車いすで周遊可能な設計

2段目水が漏れている

調整池からの道幅等情報の整理

池に落葉が溜まり、取れずにいる

増水時の水位を考慮



前ページの「空間構成の手がかり」を仮に設定した場合のトイレと駐車場の位置について複数ケースを列挙。

眺め⇄池

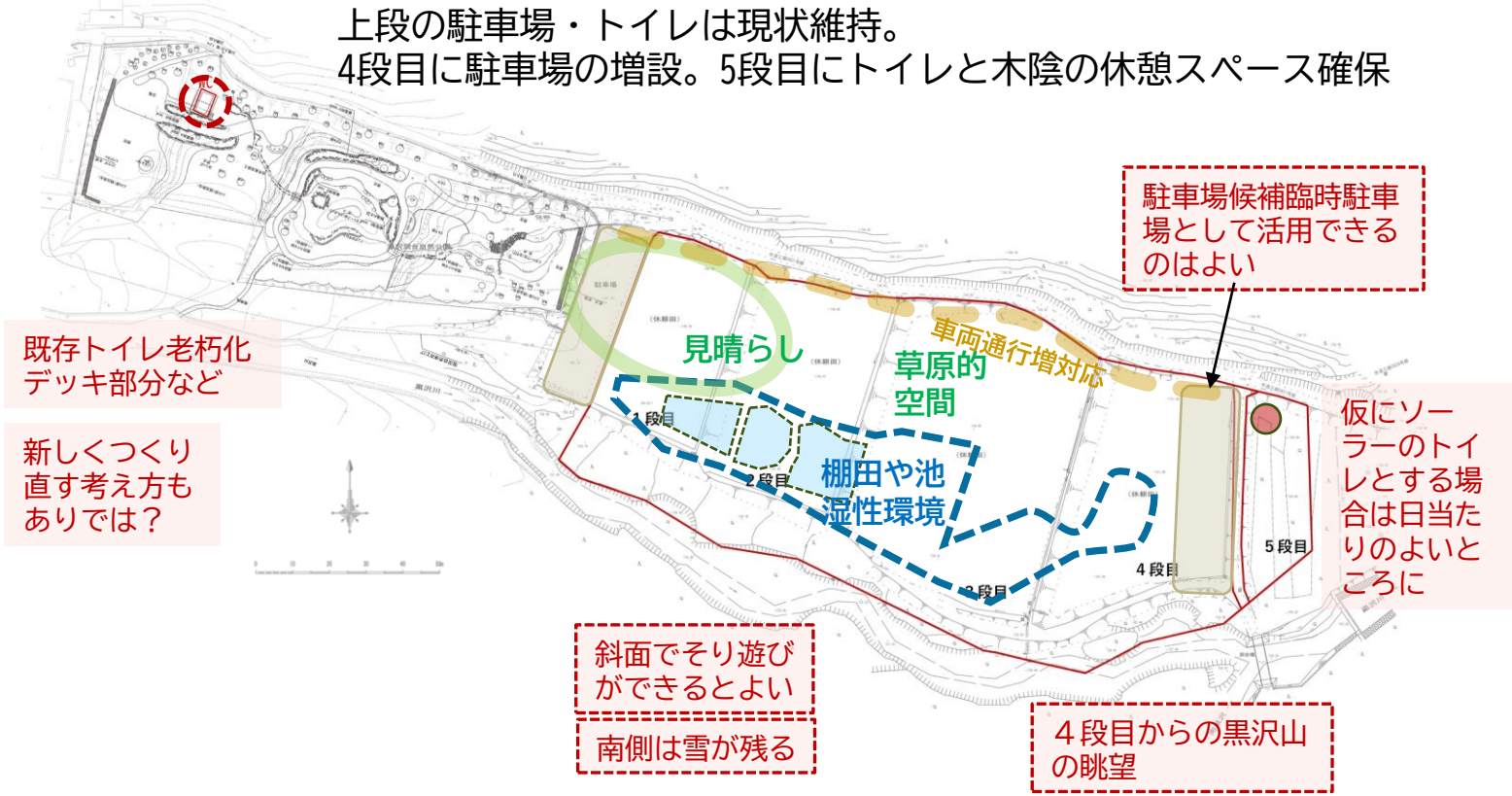
バリアフリー配慮

共生社会
バリアフリー

維持管理体制
つながりづくり

ケーススタディ①

上段の駐車場・トイレは現状維持。
4段目に駐車場の増設。5段目にトイレと木陰の休憩スペース確保



ケーススタディ③

有力案

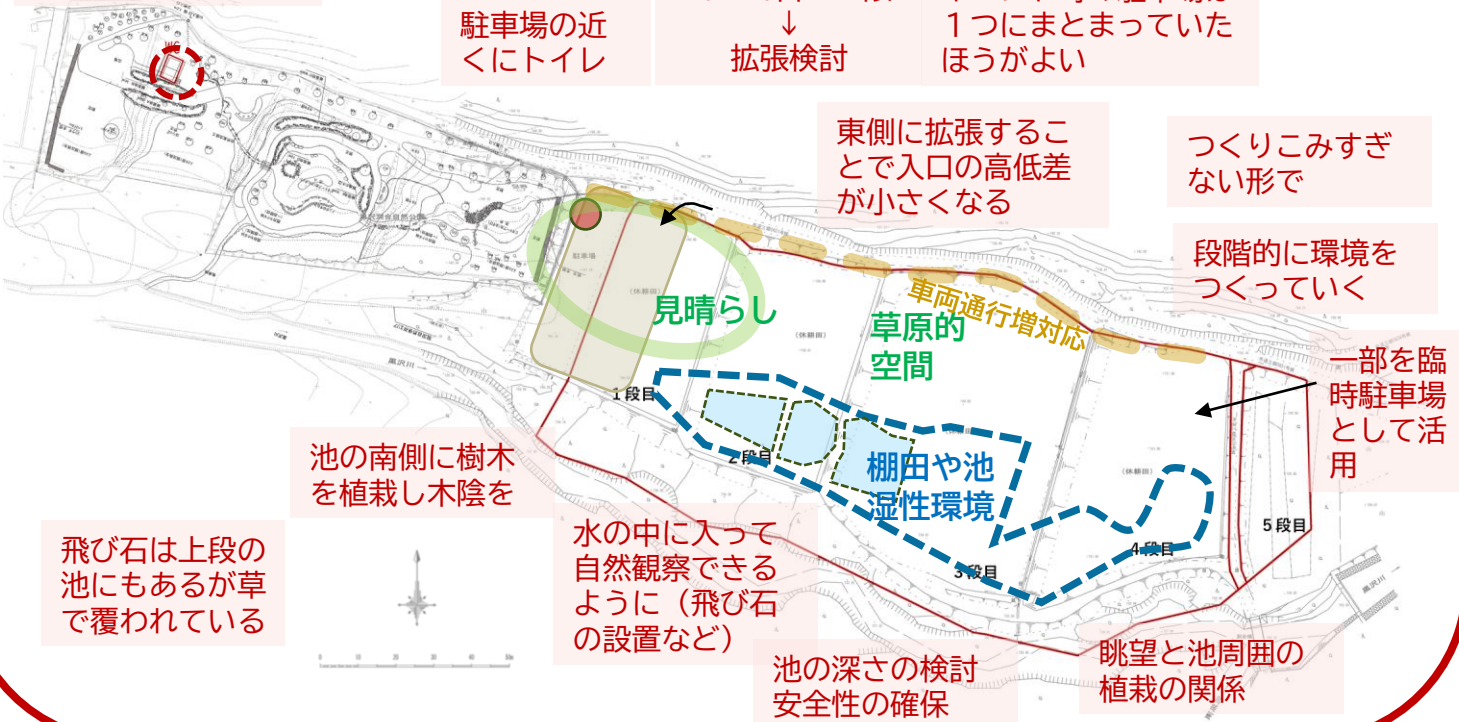
上段トイレを残し、中央の駐車場を拡張するとともに近くにトイレを整備。

上段トイレは残してもらいたい

駐車場の近くにトイレ

20~25台が上限
↓
拡張検討

イベント時の駐車場は1つにまとまっていたほうがよい



ケーススタディ②

上段の駐車場・トイレは現状維持。4段目に駐車場・トイレを増設。



ケーススタディ④

トイレと駐車場を公園の中央部に集約。
上段のトイレは廃止。

